

鴨川市健康福祉推進計画・地域福祉活動計画の策定に係る

地区別座談会報告書【地域福祉計画関連・速報版】



平成 27 年 8 月

鴨川市福祉課

1. 開催の趣旨

次期鴨川市健康福祉推進計画並びに地域福祉活動計画を策定するに当たり、鴨川市社会福祉協議会との共催により、各地区社会福祉協議会を基本的な単位とした市内 12 地区で座談会を開催し、市民や健康福祉関係者・団体等との意見交換を行い、地域における健康福祉に関する意識やニーズ、課題等を把握するとともに、意見や提言などを取りまとめ、計画に反映させることを目的とする。

なお、企画政策課において現在策定中である「鴨川市人口ビジョン」及び「鴨川市まち・ひと・しごと創生総合戦略」についても、概要説明等を行い、併せて意見等を求めるとともに、「その他」として、本年 10 月から通知が始まる「マイナンバー制度」について、市民生活課より説明が行われた。

2. 開催概要

(1)内容 ※各地区(会場)共通

- ①主催者あいさつ(鴨川市、鴨川市社会福祉協議会)
- ②説明
 - 1)鴨川市まち・ひと・しごと創生総合戦略について
 - 2)鴨川市健康福祉推進計画について
 - 3)地域福祉活動計画について
- ③意見交換
 - 1)意見交換会(上記、説明事項全般に亘るもの。質疑応答を含む。)
 - 2)グループワーク(健康福祉関係に限定。各グループからの意見発表を含む。)
- ④全体のまとめ
- ⑤その他

(2)配布資料等

- ①地方創生への鴨川市の取り組みについて【資料 1】
- ②鴨川市健康福祉推進計画 地区別座談会説明資料【資料 2-1】
- ③検診結果・医療費から見た鴨川市の健康状況【資料 2-2】
- ④地域福祉活動計画の作成について【資料 3】
- ⑤マイナンバー制度のパンフレット【資料 4】
- ⑥地区別座談会ワークシート
- ⑦おたっしや元気通信(最終号)
- ⑧鴨川市福祉総合相談センターパンフレット

(3)グループワークについて

概ね 3～9 名を 1 グループとし、ファシリテーター及び記録者として市及び社協職員がそれぞれのグループに配置。ファシリテーターを中心にワークシートに基づき自由討議を行い、その結果を 3～5 分程度で簡明に発表するもの。

3. 開催日時及び参加者数

地区名	日程	会場	参加者数
鴨川地区	8月 1日(土) 午後1時30分～3時	中央公民館	20名
主基地区	8月 2日(日) 午前10時30分～正午	主基公民館	33名
西条地区	8月 3日(月) 午後7時～午後8時30分	ふれあいセンター	17名
田原地区	8月 4日(火) 午後7時～午後8時30分	田原公民館	16名
東条地区	8月 5日(水) 午後7時～午後8時30分	東条公民館	27名
吉尾地区	8月 6日(木) 午後7時～午後8時30分	吉尾公民館	17名
江見地区	8月 7日(金) 午後7時～午後8時30分	江見公民館	9名
太海地区	8月 8日(土) 午前10時30分～正午	太海公民館	13名
曾呂地区	8月 8日(土) 午後1時30分～3時	曾呂公民館	13名
天津地区	8月10日(月) 午後7時～午後8時30分	天津小湊保健福祉センター	14名
小湊地区	8月11日(火) 午後7時～午後8時30分	コミュニティセンター小湊	9名
大山地区	8月13日(木) 午後7時～午後8時30分	大山公民館	17名
計			延べ 205名

【主催者側出席者】

市長、副市長(※どちらか)、企画政策課長、子ども支援課長、健康推進課長、福祉課長、市民生活課長、鴨川市社会福祉協議会長及び同事務局長、事務局(健康推進課、子ども支援課、福祉課及び鴨川市社会福祉協議会の職員)

4. 参加者の属性

12 地区での座談会への参加者総数は、下表のとおり 205 名であった。

その内訳であるが、性別では男性が 128 名、62.4%、女性が 77 名、37.6%となった。

また、年齢階層別では、「60 歳代」が 83 名で最も多く、実に 4 割以上を占めた。続いて「70 歳代」の 62 名、30.2%、「50 歳代」の 23 名、11.2%と続いており、高年齢層の割合が高いことが見て取れる。

地区名	参加者数 (人)	性 別		年 齢							グループ数
		男	女	39 歳 まで	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 代	80 歳 以上	不明	
鴨川地区	20	11	9	—	—	1	6	5	6	2	4
東条地区	27	10	17	1	—	1	9	9	4	3	4
西条地区	17	8	9	—	2	—	8	6	1	—	3
田原地区	16	10	6	—	1	2	7	6	—	—	3
主基地区	33	23	10	—	1	4	16	10	1	1	4
吉尾地区	17	13	4	—	—	3	8	3	—	3	3
大山地区	17	15	2	—	—	—	12	4	1	—	3
江見地区	9	6	3	—	—	—	4	4	1	—	3
太海地区	13	12	1	—	1	—	5	5	2	—	3
曾呂地区	13	12	1	—	1	6	2	2	—	2	3
天津地区	14	3	11	1	—	6	5	2	—	—	3
小湊地区	9	5	4	1	—	—	1	6	—	1	2
計	延べ 205	128	77	3	6	23	83	62	16	12	38
構成比 (%)	100.0	62.4	37.6	1.5	2.9	11.2	40.5	30.2	7.8	5.9	—

5. 意見等

(※当会議資料として速報概要版として作成。今後、正式な報告書を作成予定であり数値の変更が有り得ます。)

地区別座談会における地域福祉計画に関する意見等については、現行計画に掲げる「取り組み内容」に沿って分類することとした。(※健康増進計画に関する意見は省略。)

また、意見件数については地区単位としてカウントした。つまり、同地区内において、複数のグループから出された意見であっても、同様の内容であれば「1件」としてカウントした。したがって、12地区全ての地区で同様の意見等があった項目は、「12」とカウントされる。

また、占有率は母数を地区数の12として割合を算出したものである。

なお、現行計画上の「取り組み内容」に、当てはまらない意見等については、「5.その他」として下表に追記、集計した。

(1)取り組み内容別集計

【単位:件、%】

取り組み内容		意見数	占有率
1.市民一人ひとりが主役の地域づくり			
(1)障害、性別、年齢などを問わず、地域や学校等での福祉教育の中で、ノーマライゼーション・ソーシャルインクルージョンについて浸透を図ります	4	33.3	
(2)判断能力が落ちている人も適切にサービスが利用できるよう、日常生活自立支援事業や成年後見人制度の周知と利用促進を行います	—	—	
(3)健康福祉サービスや生活支援サービスの利用にあたって、判断能力が不十分な人の立場にたった相談体制の充実化を図ります	—	—	
小 計	4	—	
2.ふれあい、ささえあいのある地域づくり			
(4)学校や幼稚園・保育園での福祉教育の中で、お互いを思いあえる心を育て、地域の中でふれあい、ささえあう意識を根付かせます	6	50.0	
(5)広報誌やホームページなどの各種機会を通じ、地域でささえあう意識啓発を行います	1	8.3	
(6)各種行事やイベントを開催し、地域交流の機会を提供します	5	41.7	
(7)交流ができる場の情報提供や確保を行います	7	58.3	
(8)区、町内会、組、隣組等への加入に向けた啓発を行います	8	66.7	
(9)組、隣組がない地域では、回覧板が回るような組織づくりから働きかけます	3	25.0	
(10)地域を担うボランティアやそのリーダー養成のための支援を行います	4	33.3	
(11)市内の福祉に携わる人材の把握・育成を行います	—	—	
(12)福祉活動の参加を呼びかけます	—	—	
(13)ボランティアや福祉活動を行う団体の育成及び地域活動拠点づくりを支援します	5	41.7	
(14)コーディネーター役として各種団体・組織をつなぐ機会を設けます	—	—	
(15)社会福祉法人の地域貢献活動を支援します	—	—	
小 計	39	—	

取り組み内容		意見数	占有率
3.いつまでも安心して暮らせる地域づくり			
(16)	買い物などの日常生活の基盤支援を図ります	4	33.3
(17)	様々な生活支援を行う、生活支援・介護予防サポーターを育成します	—	—
(18)	コミュニティバスや移送サービスについて地域の実情を踏まえ今後も実施します	5	41.7
(19)	公共施設等のバリアフリー化を進めます	—	—
(20)	地域をつなぐ、もれのないニーズ把握の仕組みをつくります	—	—
(21)	地域の中の見守り組織づくりを支援します	6	50.0
(22)	見守り活動にあたっては、個人のプライバシーに十分配慮し、興味本位な活動にならないよう啓発を行います	2	16.7
(23)	見守り情報が民生委員・児童委員につながる仕組みづくりを行います	—	—
(24)	民間企業との連携も含めた、見守りについての仕組みづくりを行います	—	—
(25)	地域包括支援センターを中心とした、見守りネットワークを構築します	2	16.7
(26)	見守りにより、地域の防犯体制が強化され、悪質商法などによる被害が抑制されるよう働きかけます	—	—
(27)	地域での見守りが行われるよう、地域へ呼びかけます	—	—
(28)	地域で異変を感じた人がすぐに連絡・相談できる窓口、サポート体制を整えます	—	—
(29)	保健、福祉、医療、介護関係機関との連携のもと、積極的に地域の中に入っていく、問題を早期発見します	—	—
(30)	虐待が発見されたときのサポート体制を整えます	—	—
(31)	これらを推進していくために、ソーシャルサポートネットワークの推進をはかります	—	—
(32)	自主防災意識を高めるための啓発活動を行います	1	8.3
(33)	自主防災組織の育成支援を行います	1	8.3
(34)	災害時要援護者情報の収集・共有をします	—	—
(35)	災害時の避難支援の体制を整備します	2	16.7
(36)	消防団等関係機関との連携を強化し、災害時の避難支援体制を整備します	2	16.7
(37)	認知症の方や精神障害者、乳児等、通常の避難所では対応が困難な方への配慮が可能な避難所を整備します	1	8.3
(38)	地域福祉活動の自主財源確保のための仕組みづくりを支援します	2	16.7
(39)	地域の支え合い活動に対する寄付や寄贈を受け入れる仕組みづくりを支援します	—	—
(40)	リバースモーゲージ等の生活支援資金の貸付の仕組みづくりを検討します	—	—
小 計		28	—

取り組み内容		意見数	占有率
4.誰もが生活しやすい地域づくり			
(41)福祉サービスや地域の情報について広報誌やインターネット等を通じてよりきめ細かく提供します	1	8.3	
(42)地域ごとの情報を共有するための活動を支援します	—	—	
(43)市政協力員を通じて、回覧板を活用した情報提供を進めます	—	—	
(44)地域における福祉に関する就業支援の情報提供を行います	—	—	
(45)保健、医療、福祉、介護が連携したワンストップサービスによる、総合相談支援機関を設置します	—	—	
(46)相談者の状況や相談内容に応じた、身近な相談窓口と、専門的な相談窓口の両方の拠点整備を行い、それら相談窓口間のネットワーク化を図ります	—	—	
(47)誰にでも分かりやすい形で相談窓口を周知します	1	8.3	
(48)どのような福祉サービスがあるのかを幅広く収集し、情報提供します	—	—	
(49)福祉サービスを必要としている人の相談から、きめ細やかに生活状態を把握したうえで必要なサービスにつなげます	—	—	
(50)各層間（隣近所、地域自治組織圏、小域健康福祉圏、中域健康福祉圏、基本健康福祉圏）の連絡・連携を密にし、それらをつなぐ仕組み（地域包括ケアシステム）を構築します	1	8.3	
(51)医療、保健、福祉のネットワーク化により、必要なサービスが受けられる体制づくりを行います	—	—	
小 計	3	—	
5.その他			
(52)高齢者の雇用	1	8.3	
(53)居住環境の整備	1	8.3	
(54)保育施設等	1	8.3	
(55)空き家対策	5	41.7	
(56)独居高齢者抑止対策	2	16.7	
(57)子育て世帯等への支援強化	3	25.0	
(58)生活困窮者対策	1	8.3	
(59)新住民との交流	2	16.7	
小 計	15	—	
	71	—	

(2)意見等の概要

鴨川地区	
日時	8月1日(土) 午後1時 30 分～午後3時
場所	中央公民館
参加者数	20 名

	課題や困りごとなど、日頃活動をしている中で感じていること	課題解決に対して地域や自分たちで取り組めるアイデアなど	分類
1	ボランティアに協力してくれる人員の確保が難しい		2-(10)
2	買い物に鴨川駅周辺まで行くが、乗り換えなどが不便		3-(18)
3	防災訓練の参加者が少なく、意識の低下が伺える	組長を集め、意識の向上に向けた話し合いを行うことが重要	3-(32)
4	津波避難ビルなど、階段のため避難が困難（幅が狭い、夜間時）	総合的な津波対策の実施 避難経路の確保・整備	3-(35)
5	体調不良などといった際の相談先がわからないお年寄りがいた		4-(47)
6	川口、大浦地区には若い人が少ない。若い人が残れるよう、安定した雇用の場の創出が必要	・安定した雇用の創出のため、元気な高齢者を鴨川に呼び込む。働く場の確保、定着 ・漁業の開発・活性化（定置網等） ・太平洋の資源の活用を ・働きやすい環境づくり	5-(52)
7	安心して子育てできる環境づくり	津波の不安解消のために、鴨川保育園を高台に移築	5-(54)
8	漁村集落のため敷地が狭く、新築が難しいため、核家族や独居高齢者の増加要因となっている		5-(53)

西条地区	
日時	8月3日(月) 午後7時～午後8時 30 分
場所	ふれあいセンター
参加者数	17 名

	課題や困りごとなど、日頃活動をしている中で感じていること	課題解決に対して地域や自分たちで取り組めるアイデアなど	分類
1	認知症対策	認知症に関する啓発運動による認知症対策を図る※徘徊者対策	1-(1)
2	地域のコミュニティの希薄化	・身近な団体、集団において結びつきを大切にする ・県営住宅の人との関わりがない	2-(4)
3	新住民との交流が不十分	・子どもと高齢者が集まりやすくする為に、集会場所の改築が必要（公民館を活用するには、トイレを洋式にする等）	2-(7)
4	自治会組織力の低下	・区長会の席で、市民交流課長が当該区長に対し、改善を探るよう指導する ・移住者に対する自治会加入の声掛け（市民交流課）	2-(8)
5	回覧板が回らない		2-(9)
6	地域を結びつける役割を担うリーダーを育成して欲しい	・地域全体でカバーできるように、調整を図る機能を担当する人を増やしていく	2-(10)
7	独居高齢者等の見守り	・民生委員、認知症サポーター、老人クラブ、地区社協の人たちを組織的に有効活用する	3-(21)
8	西条小学校の利活用	・災害対策で地域づくり（災害避難場所の拠点として、又人のつながり作りの為に西条小を活用したい	3-(35)
9	寄付金等への周知が図れていない		3-(38)

田原地区	
日時	8月4日(火) 午後7時～午後8時 30 分
場所	田原公民館
参加者数	16 名

	課題や困りごとなど、日頃活動をしている中で感じていること	課題解決に対して地域や自分たちで取り組めるアイデアなど	分類
1	未婚者の増加		2-(6)
2	交流ができる場の確保	・老人たちが気軽に集まれる場所の確保 ・集会所として、コンテナの利用 ・集会所の老朽化に伴う改修が必要 ・親子で一緒に遊べる公園の設置	2-(7)
3	自治会機能の活性化、加入率の促進	・自治会の基盤をしっかりと整えるため、市の方で皆が自治会に入ってもらうための工夫が必要	2-(8)
4	回覧板が回らない		2-(9)
5	集落機能の低下に伴い、地域での見守りが困難	行政によるきめ細かい実態把握と見守り	3-(25)
6	避難所である田原公民館の入り口が階段で、高齢者の避難が困難		3-(37)
7	社協、赤十字の集金の一括化及び使途の公表	5月の赤十字と6月の社協の集金を一括徴収	3-(38)
8	時代が変わり、子が親の面倒をみるのが難しい	・独居老人をつくらないように、家族構成の改善を図る。 ・子が通勤できれば、同居できることも	5-(56)
9	新住民との交流が困難	・新住民への積極的なアプローチ ・新住民との交流が図れる場を作る	5-(59)

東条地区	
日時	8月5日(水) 午後7時～午後8時 30 分
場所	東条公民館
参加者数	27 名

	課題や困りごとなど、日頃活動をしている中で感じていること	課題解決に対して地域や自分たちで取り組めるアイデアなど	分類
1	認知症高齢者対策		1-(1)
2	交流の場の確保	・3世代交流が可能な場の確保 ・公民館活動通知に係る葉書代の個人負担の是正 ・老人クラブへの勧誘	2-(7)
3	自治会加入率が低い	・行政主導の加入促進 ・業務量の見直しによる負担の軽減	2-(8)
4	高齢者の買い物支援		3-(16)
5	地域での子どもの見守り		3-(21)
6	新住民との交流が困難	・花見、祭りなど地区行事への積極的な勧誘 ・老人クラブへの勧誘	5-(59)
7	子育て世帯への支援強化	・未就学児を持つ母親への支援強化 ・母子家庭への支援強化 ・児童館、公園の整備 ・送迎支援 ・土曜スクールの開催	5-(57)

主基地区	
日時	8月2日(日) 午前 10 時 30 分～正午
場所	主基公民館
参加者数	33 名

	課題や困りごとなど、日頃活動をしている中で感じていること	課題解決に対して地域や自分たちで取り組めるアイデアなど	分類
1	障害者施設の充実		1-(1)
2	福祉意識の醸成について	・ ボランティアポイント制の導入 ・ 表彰制度の創設 ・ 福祉について、もっと PR すべき ・ 市民力の活用（大胆な発想の転換）	2-(4)
3	地域の健康づくり、福祉に関する情報提供の充実。（サロンへの男性の参加が少ない等）		2-(7)
4	ボランティアの高齢化、担い手・後継者不足	・ 市役所職員、教員OBの活用 ・ 研修の実施	2-(10)
5	サロン活動の支援強化	鯛バスの利用時間の延長	2-(13)
6	サロンの会場への送迎を検討して欲しい	・ コミュニティバスの運行経路に関するアンケート	2-(18)
7	見守り活動の充実		3-(21)
8	消防団員が不足している		3-(36)
9	空き家が増加している		5-(55)

吉尾地区	
日時	8月6日(木) 午後7時～午後8時 30 分
場所	吉尾公民館
参加者数	17 名

	課題や困りごとなど、日頃活動をしている中で感じていること	課題解決に対して地域や自分たちで取り組めるアイデアなど	分類
1	認知症高齢者対策		1-(1)
2	若い人の単身世帯が増加している	・独身者を結びつける機会を作る	2-(6)
3	独身で一人暮らしの若い人(40～50代)の支援が困難(行事以外の交流がない)	・生活応援(支援)サポート制度の創設	2-(7)
4	自治組織力の低下	大川面は役員になる人がいないので、年齢で役員を決めている	2-(8)
5	サポーター活動への支援	・サポーター活動の周知が出来るとよい。地域の方々と情報共有をしておくことが大事 ・本人のニーズにあったサポーター活動を探っていく必要がある	2-(13)
6	宅配を利用しているが買い物が困難	・買い物代行サービスの創設 ・買い物サポーター制度の創設	3-(16)
7	バス停までの距離が遠く、通院の足がない		3-(18)
8	見守り活動の改善	若い単身者にも見守りが必要	3-(21)
9	見守りを行いにくい家があり、不審者と思われるなど、見守り活動がしづらくなっている	困難世帯には複数人での訪問活動	3-(22)
10	独居老人が多く、夏は熱中症が心配。見守りが必要	・金融機関、郵便局、コンビニ等による見守りネットワーク化と情報の共有 ・上記ネットワークに区も参画	3-(25)
11	独居世帯の消滅によって、空き家が年々増えてきている		5-(55)
12	独居老人抑止対策	雇用の場の創出により、若者の流失を抑止することにより同居	5-(56)

大山地区	
日時	8月13日(木) 午後7時～午後8時30分
場所	大山公民館
参加者数	17名

	課題や困りごとなど、日頃活動をしている中で感じていること	課題解決に対して地域や自分たちで取り組めるアイデアなど	分類
1	移住者との交流		2・(8)
2	自治組織による健康福祉の取り組み	部会の立ち上げなど	2・(13)
3	買い物支援、サロンへの交通手段	・コミュニティバスの小型化及びデマンド化 ・長狭街道全線の高速バスの運行	2・(18)

江見地区	
日時	8月7日(金) 午後7時～午後8時 30 分
場所	江見公民館
参加者数	9 名

	課題や困りごとなど、日頃活動をしている中で感じていること	課題解決に対して地域や自分たちで取り組めるアイデアなど	分類
1	福祉意識の醸成について		2-(4)
2	サロン会場が手狭なうえ、地域住民で気軽に集まって話し合える場が欲しい	旧江見保育園の活用	2-(7)
3	高齢化のため自治会からの脱退希望が多くいる一方で、新住民は自治会の加入に消極的		2-(8)
4	地域福祉の担い手が少ない	若い人へ向けた人材育成や教育が必要ではないか	2-(10)
5	サロンへの送迎が課題	区長をはじめ、役員だけに限らず地区を挙げての協力	2-(13)
6	空き家が多くなっている（草刈などの日常管理、建物の老朽化が懸念される）		5-(55)

太海地区	
日時	8月8日(日) 午前 10 時 30 分～正午
場所	太海公民館
参加者数	13 名

	課題や困りごとなど、日頃活動をしている中で感じていること	課題解決に対して地域や自分たちで取り組めるアイデアなど	分類
1	福祉意識の醸成	区等を通じた福祉に関する PR を行う	2-(5)
2	男性の単身世帯が増加しており、地域のつながりが薄れ、組織力が低下しつつある。また、新住民が加入に消極的である		2-(8)
3	地元商店がなくなり、買い物に苦労している。	・買い物代行サービス ・宅配先の紹介	3-(16)
4	独居高齢者の増加に伴う見守り支援の強化	・地域のつながりが重要 ・道端での声かけも有効	3-(21)
5	区長・組長、菜の花サポーター等が情報を共有する仕組みづくりが必要		3-(22)
6	空き家の増加を危惧している（不法侵入者、火事等）		5-(55)

曾呂地区	
日時	8月8日(日) 午後1時 30 分～午後3時
場所	曾呂公民館
参加者数	13 名

	課題や困りごとなど、日頃活動をしている中で感じていること	課題解決に対して地域や自分たちで取り組めるアイデアなど	分類
1	独居高齢者が増加している	幼少教育の一環で福祉教育を実施	2-(4)
2	夏休み期間で子どもいないため、交流できる機会が欲しい	サマースクールの開催	2-(6)
3	老人クラブの加入者が減少している	・入会しやすいシステムづくり ・魅力ある事業メニューづくり	2-(7)
4	自治会未加入者への情報伝達手段がない		2-(9)
5	買い物が困難	大型商業施設の周辺にシニアタウンの造成	3-(16)
6	独居高齢者が増加している	切れ目のない福祉、見守りあいが大切	4-(50)
7	空き家が増えている	・移住者が利活用 ・宿泊施設への転用 ・管理ルールの制度化	5-(55)

天津地区	
日時	8月10日(月) 午後7時～午後8時30分
場所	天津小湊保健福祉センター
参加者数	14名

	課題や困りごとなど、日頃活動をしている中で感じていること	課題解決に対して地域や自分たちで取り組めるアイデアなど	分類
1	若い世代の価値観の違い	・世代間の価値観の相違もある意味コミュニティであり、人間関係の材料となる ・年配者の価値観が固定観念化した価値観の押し付けは好ましくない	2-(4)
2	結婚・育児の意識が低い	婚活事業の開催回数の増、対象年齢を引き上げ、高齢者も対象に実施	2-(6)
3	地域組織の弱体化で、見守り体制が弱く、把握しきれない		2-(8)
4	サロン活動の支援について	・サロン活動に対する助成金の増額 ・歩いて行ける所にサロンが欲しい ・男性参加者に魅力ある活動を展開し、参加を促進する	2-(13)
5	コミュニティバスの本数及び利用者が少ない	・高齢者割引制度の導入 ・デマンド方式の導入	3-(18)
6	家族の支援に頼れない人が多い→家族関係の希薄化、核家族の増加		3-(21)
7	平日の津波避難訓練の男性参加者(中年層)が少ない		3-(33)
8	身体の不自由な人の津波対策が必要	災害時にも助け合えるように、小さな地域ごとにエコマップを作り、避難訓練を実施	3-(36)
9	子育て世帯等への支援強化	・保育園の入園制約の是正 ・働きながら子育て出来る環境づくり ・預かり保育における幅広い時間設定	5-(57)
10	生活困窮者の増加	生活資金の支援	5-(58)

小湊地区	
日時	8月11日(火) 午後7時～午後8時30分
場所	コミュニティセンター小湊
参加者数	9名

	課題や困りごとなど、日頃活動をしている中で感じていること	課題解決に対して地域や自分たちで取り組めるアイデアなど	分類
1	地域の中でふれあい、横のつながりを持つ	遊びのための（楽しめる）農業の展開	2-(4)
2	引きこもり防止	引きこもりの解消を図るため、多様なイベント等を開催	2-(6)
3	独居高齢者の配食サービス利用者が、もう少し増えると良い	サービスの周知	4-(41)
4	空き地がたくさんある		5-(55)